

女性医師への道を開く 佐藤 やい

1898 (明治 31) 年5月 26 日—1964 (昭和 39) 年2月 27 日



県人女性初の医学博士

日本女性初の病理学教授

女医教育の発展に尽力

医院で働く

射水郡新湊町放生津 (現射水市) で生まれました。学校の成績は優秀でした。14歳のとき、以前に手をけが

して治療してもらった新湊町内の石黒医院で看護婦と子守を兼ねた仕事に就きます。やいは石黒伯院長から医学や医師の話を聞き、自分も医者になりたいと思うようになりました。

博士号を取得し教授に

やいは、東京女子医学専門学校 (現東京女子医科大学) に通う先輩から、学校の創設者である吉岡弥生 (よしかみよ) の話を聞き、尊敬の気持ちをもつようになりました。

1915 (大正 4) 年、一人で上京したやいは、吉岡家に住み込むことになりました。家事を手伝いながら昼は学校事務員として働き、夜は受験

勉強に励みました。東京女子医学専門学校に合格したやいは、学校事務を続けながら通学。卒業後は遺体を解剖して死因を調べる病理学研究の道へ進み、この研究で富山県出身の女性として初めて医学博士号を取得しました。また、女性として日本で初めて病理学の教授に就任しました。

戦争で学校や病院が焼失したときは、再建のために力を尽くしました。

夢や志をかなえたポイント

- 尊敬する先生に直接学ぶ
- 夢の職業に就くため、逆境に負けず勉強する
- 先生や学校に恩返しする



1923 (大正 12) 年ごろの東京女子医学専門学校での手術の様子 (東京女子医科大学史料室提供)